

あの伝説のTVドキュメンタリー『放送禁止歌』をみんなで観て、 学術会議任命拒否について、今、私/社会/世界に問い直す。

松宮孝明 (立命館大学教授) × 森達也 (映画監督・作家) 対談

司会・聞き手 花房朋樹 (全盲の視覚障害当事者、京大文学部4年生)

パネルディスカッション

テーマ:「放送禁止歌」の身近な出来事 ~弾圧してますか?弾圧されてますか?~

齊藤ゆずか (京大文学部2年生) 江尻智森 (西部講堂連絡協議会)

藤原菜那 (京大法学部2年生) 高木佑透 (映画「僕とオトウト」監督)

LINDA (京大人間・環境学研究科修士2回)

2021.12.12 日曜日

開場:14:30 / 開演:15:00 入場無料(カンパ制)

会場:京都大学 北部総合教育研究棟 益川ホール

この問題は、学問の自由への侵害のみに止まりません。
これは、表現の自由への侵害であり、言論の自由への明確な挑戦です。

(映画人有志による「日本学術会議への人事介入に対する抗議声明」より)

- #真綿で首を絞められているのはもう学問だけではない
- #学術会議問題を中心に日本の姿をあばきだす
- #振り向いて噛みしめるべきだ自分たちの過ちを自分たちの忘却を

日本学術会議問題。これはまずい。
政局の問題? 生ぬるい。学問の危機? その段階は通り過ぎた。
端的に、言論弾圧事件である。報道、学術、芸術が結集して抗わねば、本当にまずい。
理由を言わぬままの学問と言論への脅迫と圧力は、
少なくともその理由を明言して批判者を排除したナチスより厄介だ。(…)
今回の事件が怖いのは、多くの国民や科学者が攻撃の傷の深さに気付いていないこと。
お上に逆らうとこうなるのか、という空気だけが残ること。
真綿で首を絞められているのは、もう学問だけではない。
(藤原菜那「学術会議任命拒否」結果してあらがおう」毎日新聞 2020年10月22日付)

放送禁止歌の本質は何か。
エーリッヒ・フロム的に言えば「自由からの逃走」。
エティエンヌ・ド・ラ・ボエシの語彙を借りれば「自発的隷従」。
集団と相性が良いこの国は、こうした傾向がとても強い。だからこそ集団は間違える。
そして集団の過ちは、個に大きな被害をもたらす。
振り向いて噛みしめるべきだ。自分たちの過ちを。自分たちの忘却を。
(森達也)

「放送禁止歌」〜唄っているのは誰?規制するのは誰?〜

(1999年5月22日放送)

ドキュメンタリー映画「A」発表後最初の作品であり、森達也の名前をさらに高めることとなった衝撃作。
公序良俗に反する、差別を助長する…様々な理由で放送を見送られる「放送禁止歌」。「なぜ放送されないのか」、「誰が規制をするのか」を森は追う。その過程で、最大の放送禁止理由と言われる部落差別問題を精鋭すべく直接部落解放同盟本部へと向かう。そしてついに、身内であるテレビ局へとカメラを向ける…。企画自体は6年越しの企画。各局ドキュメンタリー番組担当からは「放送禁止歌を放送できるわけがない」と一蹴され続ける。ようやくフジテレビでの放送が決まり撮影を進める中、「放送禁止歌」とは形骸化したもので、実体などないことがわかる。そこから企画は「過去の規制の検証」から「現在の規制の主体を炙り出す」ことに徐々に変質してゆく。放送後、解放出版社から部落差別問題についての取材を加える形で、同名の「放送禁止歌」として出版された。

◎OA時と同じ音声ノーマットバージョンでの収録となります。
制作:フジテレビ・グッドカンパニー
プロデューサー:遠藤京明
演出:撮影:ディレクター:森達也



Tatsuya Mori TV Works〜森達也テレビドキュメンタリー集〜

「A」(1997)、「A2」(2001)、「311」(2012)、「FAKE」(2016)、「I」(2019)...

常に話題作であり問題作を作り続ける映画監督森達也がテレビドキュメンタリー史に数くるとした伝説の傑作4番組が奇跡のDVD化!

発売日:2021年12月3日(金)
総数:2枚組DVD・セルカ、音声・DIGS-2002 総額¥7,000 (C)森達也
発売元:DIGSレーベル(株式会社ディメンション)、発売協力:ヒカリエサーカス、販売元:パピネットメディアマーケティング

「A」(1997年)、「FAKE」(2016年)、「I」(2019年)、「311」(2012年)…常に話題作、そして問題作を生み出す映画監督森達也がテレビドキュメンタリー史に数くるとした伝説の傑作4番組が奇跡のDVD化!
タブーを冒す、それとまでタブーを踏んでしまっているのか、森達也の真骨頂を究めた伝説のDVD化!
◎権利の都合上、一部楽曲を差し替えてありますが、「放送禁止歌」はOA時と同じ音声ノーマットバージョンで収録しております。



対談



森達也

地下鉄サリン事件発生後、オウム真理教広報部長であった荒木浩と他のオウム信者たちを描いた「A」は、98年に劇場公開され、ベルリン国際映画祭など多数の海外映画祭でも上映された。16年には、ゴーストライター騒動をテーマとする映画「Fake」を発表。19年、東京新聞社会部記者の望月衣聖子氏にカメラを向けたドキュメンタリー映画「I」(「I」)を発表。



松宮孝明

刑法学者。日本刑法学会理事。著書に「共謀罪」を問う:法の解釈・運用をめぐる問題点(2017年、法律文化社)、「刑法総論講義 第5版補訂版」(2018年、成文堂)。訳書に「ギンター・ヤコブス著作集(第1巻) 犯罪論の基礎」(2015年、成文堂)など。



花房朋樹

京都大学文学部4年生。大阪出身。全盲の視覚障害当事者。専門は西洋近代史で教職課程も履修中。課外活動では、関西Student Libraryの会長を務めた他(2019年度)、障害者のリアルに迫る京大ゼミ(2019年当時の名称)やSAKURA(Supporting Accessibility to Kyoto University and Recreating Association)の立ち上げ(2021年度)にも関わる。興味関心は歴史学、教育学、障害学はもちろん、ジェンダーについても日々考えている。趣味は歌うこと、人としゃべること、文章を書くこと。



齊藤ゆずか

京都大学文学部2年生。北海道出身。高校2年のときに北海道バレスチナ医療福祉団体の講演を聞いてバレスチナ問題に関心をもつ。大学入学後、ゼミをきっかけにチーム「SHIRORU」(しるる)を立ち上げ、京都大学・同志社大学の仲間とオンラインでバレスチナについての講演会や、現地の大学生との交流会を運営している。文章を書くことが好きで、高校3年のときに「ながめふる」で第57回有島青少年文芸賞優秀賞に入選。

パネルディスカッション



江尻智森

京都大学文学部4年生。西部講堂連絡協議会学生代表。役者、脚本、演出などを通じて西部講堂と関わる。主な活動、企画「天幕浪き西部大祭」(出演、2019年)、企画「浅川マキを観る」(出演、2020年)、劇団コンセンサス「ルシアファは人造人間」(脚本・演出、2021年)



藤原菜那

京都大学法学部2年生。おしゃべりが大好きな大阪人。ドラマ「リーガル・ハイ」をみて法律に興味を持ち法学部を選択。興味があるのは、国際分野で特に政治と法律の関係を勉強中。小さい頃から日本の政治にも関心があり、様々な問題について人と意見交換するのが好き。



高木佑透

人間・環境学研究科共生人間学専攻修士2年生。映画「僕とオトウト」監督。「私」にとって「障害」と「障害者」とはいかなる存在なのか。その問いに対し、発達心理学的研究や障害学、映画の制作や配給・宣伝を通して向き合っている。



LINDA

人間・環境学研究科、共生人間学専攻、修士2回。専門は两大戦間期のホーランド文学。またハンセン病と文学にも関心を持つ。高木佑透さんの映画「僕とオトウト」では上映委員として活動を共にした。

【タイムテーブル】

15:00~ ドキュメンタリー『放送禁止歌』上映(約50分)

森達也監督舞台挨拶+質疑応答(約15分)

16:10~ パネルディスカッション(学生中心、約20分)

16:30~ 松宮教授×森監督対談第2回(約45分)

- 主催:企画「学術会議任命拒否」結果してあらがおう」実行委員会
- 共催:自由と平和のための京大有志の会
- 問い合わせ komagome.takeshi.5m@kyoto-u.ac.jp

【コロナ関連注意事項】

- ある一定の来場人数を超えた場合、会場入りをお断りする可能性があります(入場先着順)
- 体温、体調などを来場時に確認させていただきます
- 来場される方は、基本的にマスク着用をお願いします



京都大学 北部総合教育研究棟 益川ホール
606-8267 京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学 北部構内 農学部グラウンド南側